

イエスと、イエスの兄弟とのやり取りは、そんなに多くの記事はない。ただ、イエスの活動がガリラヤ湖周辺とするならば、兄弟が住む家には多くの方が訪ねてきただろう。中にはイエスに関する苦情もあったに違いない。母マリアもイエスを諫めくわめることがあった。とくに家族のひとりでメシアという称号のうわさが流れると家族の心情はどうであったか。イエスに対する家族の心情は複雑であったと考えられる。

イエスに期待するものと、妬むものとの狭間。

「これはわたしの愛する子」という神さまのことばから、弟子たちの間ではメシアと認める発言があった。そのメシア観とは、イエスを王とした国が建つことであった。奇跡が起きても、癒しがあっても、この方、イエスが王となればとの期待感は膨らむばかりです。そこで、

メシアと仮庵の祭。

イエスの兄弟は、弟子たちが理想とするメシア王国の実現には、「仮庵の祭」時に、エルサレムにのぼり、ガリラヤで行っている癒しと奇跡を見せる方が早いと言うのです。

・メシアと仮庵の祭の関連性 (1) 仮庵の祭りは、過越の祭り、5旬節に並ぶユダヤの3大祭りの1つで、秋(10月頃)に祝われました(レビ23:33~44)。(2) ゼカリヤ書14:16~21によれば、仮庵の祭りは、メシア的王国を予表するものとされています。そこには、メシアがエルサレムから全世界を支配するようになる時、異邦人たちはメシアを礼拝する。【クレイより】

イエスの兄弟の思惑、解決へと誘う

イエスの兄弟は長男となるイエスの言動と行動に困り果てていた。本当にメシアであればそれで解決しますし、そうでないにしてもイエスを遠ざけることができます。それほどまでに悩んでいたと思われます。

イエスの返答

兄弟に向けて話されたことばは、「わたしの時はまだ来ていない。」でした。この返答は兄弟に決して通じることのないものでした。イエスだけが知っている「時」。

時(ギリシャ語でカイロス)

神さまが定めた時カイロス。「その時」は後の時間でわかります。イエスは「その時」を話されたのでした。そして「その時」は、世論を動かすものにとって受け入れられないものとなります。イエスは邪魔者、そう思う人々を「世」とヨハネは言うのです。イエスの兄弟と世には共通点があります。それは疎ましく思うことです。なのでイエスの兄弟を殺そうとは思わないのです。

仮庵の祭を守られるイエス

イエスの姿勢を学びましょう。聖書(旧約)の教えを、イエスはむげにしたわけではない。教えを守るように勧められたことはいまも変わりません。人の都合が優先されることはないということです。そこに真心がたされます。

ここに注意が必要です。教えを真心で守るには「慣れ」に注意する必要があります。慣れからは身勝手な解釈が作られます。これをズレと言います。または「的外れ」となるのです。的外れはハマルティアと言って「罪」と言われるものです。

私たちは、大切な教えを知っています。それをいかに守るのかを、今一度考えてみましょう。

新しい一週間に祝福がありますように。